

守口市立図書館指定管理者制度 総合評価(施設所管課による評価)

【評価対象施設】 守口市立図書館

【指定管理者名】 図書館流通センター・大阪ガスビジネスクリエイト・長谷工コミュニティ共同事業体

【評価対象年度】 令和7年度

【施設所管課名】 市民生活部 生涯学習・スポーツ振興課

施設のサービス水準の視点 コメント
守口市立図書館の運営については、協定事項に基づき適切に実施されていることが確認されました。 本年度は、来館者数が約33万7千人と昨年度比約7千人減少したものの、図書館資料の貸出件数は約9万3千件(昨年度比約4.9%増)、貸出冊数は約37万2千冊(昨年度比約1.6%増)と、利用者の実績が向上している点が評価されます。また、電子図書館の利用も好調であり、登録者数は累計約3,100人(昨年度比約9.7%増)、貸出回数は昨年度比約1.9%増と、図書資料とともに多くの市民に利用されている結果が見られ、特に、市内小・中学校7校で実施した「読み放題パック」の導入により、読書推進活動が進展し、貸出回数は昨年度比約162%増と大きな成果を上げています。また、利用者アンケートにおいてスタッフの対応に対する満足度が高かった点は特に評価されます。一方で、アンケート結果の分析や今後の対応策の検討については課題が残されており、より具体的な改善策の策定と実施が求められます。 生涯学習事業においては、ロビーコンサートをはじめ、来館者に好評な事業の継続実施と併せ、守口市を題材とした朗読劇「Mの航跡」を再演など、来館者の傾向分析をもとに事業が実施されました。その他、守口市収蔵の美術作品を活用した「第1回守口市立図書館収蔵品展」の開催や、「親子deダンス講座」の市民まつりステージ発表など、地域の魅力を発信する活動も積極的に行われた点が評価できます。一方で、来館者数の減少に対しては、自習室の予約システム化などがあるものの、さらなる広報活動の強化や利用促進施策の検討が求められます。

収支状況 コメント
収支状況については、光熱水費や人件費の高騰があったものの収支均衡となりました。 しかしながら、光熱水費や人件費の上昇が収支に影響を与えており、不可抗力ではあるものの今後は、参加率の低いイベントの見直しや、さらなる広報活動の強化、知名度のある講師などを招へいたイベント誘致を通じた利用者増加への取組を進めることで、さらなる収入増の可能性を継続的に検討する必要があります。

市（施設所管課）による総合評価	総合評価
施設運営については、指定管理者による管理体制のもと、協定事項の水準どおりに実施されており、一定の成果が認められます。図書館資料の貸出件数が約9万3千件(昨年度比約4.9%増)、貸出冊数が約37万2千冊(昨年度比約1.6%増)と利用実績が向上しているほか、電子図書館登録者数が累計約3,100人(昨年度比約9.7%増)と順調に推移しています。一方で、アンケート結果の分析や今後の対応策の検討には改善の余地があります。 生涯学習事業では、ロビーコンサートや朗読劇「Mの航跡」の再演、「第1回守口市立図書館収蔵品展」の開催など、来館者の傾向分析に基づく事業の企画や、地域の魅力を発信する事業が実施されました。一方で、来館者数が約33万7千人と昨年度比約7千人減少している点、参加率の低いイベントに対しては、広報活動のさらなる充実や利用者ニーズを踏まえた事業の見直しが求められます。 総合的に判断し、評価区分『B』とします。	B

総合評価区分

- A：協定事項等を上回る水準で施設運営がされ、大変良好なサービスが提供されている
- B：概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされている
- C：協定事項等の水準以下であった